

ダイワ／JPMオルタナティブ 戦略オープン（ダイワ投資一任専用）

<2743>

追加型投信／内外／資産複合／特殊型(絶対収益追求型)
日経新聞掲載名：Fオルタナ戦

第4期 2020年6月15日決算

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、世界各国の株式、債券、通貨等にデリバティブ取引も活用しながら投資し、絶対収益の獲得をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。


第4期末	基準価額	8,551円
	純資産総額	928百万円
第4期	騰落率	△10.4%
	分配金	0円

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先

 コールセンター 受付時間 9:00～17:00 (営業日のみ)
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書（全体版）」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書（全体版）」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

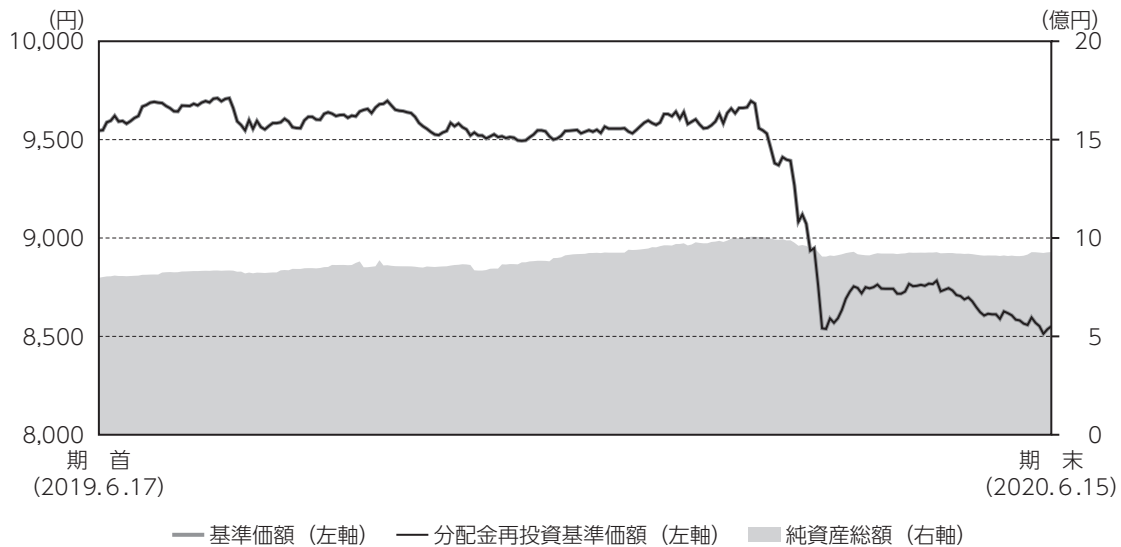
◇TKU0274320200615◇

「運用報告書（全体版）」の閲覧・ダウンロード方法
上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書（全体版）を選択



運用経過

基準価額等の推移について



*分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 *分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■基準価額・騰落率

期首：9,546円
 期末：8,551円（分配金0円）
 騰落率：△10.4%（分配金込み）

■基準価額の主な変動要因

システムティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）およびマクロ・オポチュニティーズ・ファンド（円ヘッジ・クラス）の投資証券への投資を通じて、世界各国の株式や債券、通貨等にデリバティブ取引も活用しながら投資を行いました。その結果、マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（円ヘッジ・クラス）は上昇しましたが、3分の2程度を組み入れているシステムティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）が下落したことから、ファンドの基準価額も下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

※システムティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）：システムティック・アルファ・ファンドーJPMシステムティック・アルファ（1クラス）（円ヘッジ）
 マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（円ヘッジ・クラス）：グローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンドーJPMグローバル・マクロ・オポチュニティーズ（1クラス）（円ヘッジ）

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2019.6.18~2020.6.15)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	43円	0.457%	信託報酬=当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は9,348円です。
(投 信 会 社)	(31)	(0.326)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(10)	(0.109)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.022)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料=当作成期中の売買委託手数料/当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税=当作成期中の有価証券取引税/当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0.008	その他費用=当作成期中のその他費用/当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(1)	(0.008)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	43	0.465	

(注1) 当作成期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

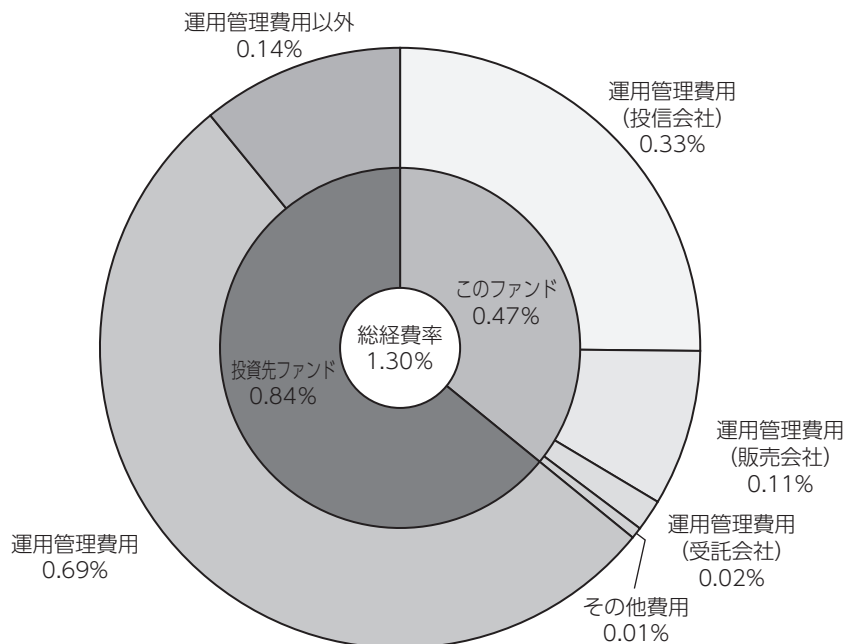
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■総経費率

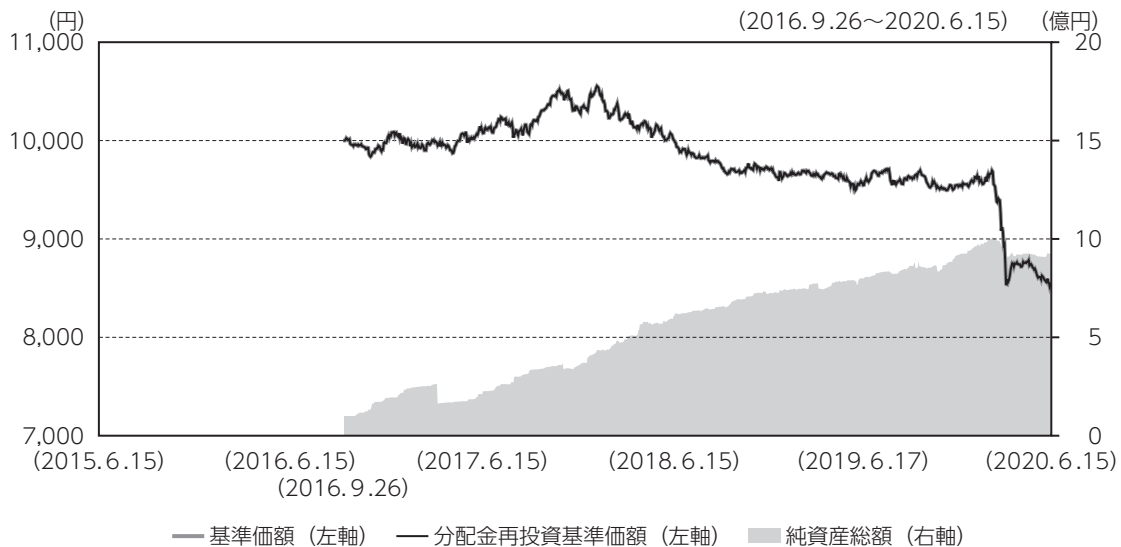
当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.30%です。



総経費率 (①+②+③)	1.30%
①このファンドの費用の比率	0.47%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.69%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.14%

- (注1) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
 (注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
 (注3) 各比率は、年率換算した値です。
 (注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。
 (注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。
 (注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
 (注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移について



	2016年9月26日 設定	2017年6月15日 決算日	2018年6月15日 決算日	2019年6月17日 決算日	2020年6月15日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,097	10,001	9,546	8,551
分配金 (税込み) (円)	—	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	1.0	△1.0	△4.5	△10.4
純資産総額 (百万円)	100	211	610	797	928

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

投資環境について

(2019.6.18~2020.6.15)

株式市況

世界株式市場はおおむね横ばい（現地通貨ベース）となりました。

当作成期の世界株式市場は変動性の高い相場展開となりましたが、当作成期首で見ると、おおむね横ばいとなりました。当作成期首より2019年末にかけては、米中通商交渉の第1段階合意による米国の対中追加関税回避や、英国総選挙での保守党大勝を受けた英国のEU（欧州連合）離脱への不透明感の後退などを背景に、世界株式市場は上昇しました。しかし2020年に入り、新型コロナウイルスの感染拡大が加速するに連れて、世界経済の先行きに対する不透明感が急速に強まり、2月後半以降の世界株式市場は大幅に下落しました。4月からは、主要中央銀行による足並みを揃えた金融緩和策の実施や、各国政府による大規模な景気刺激策などが好感され、市場は反転の動きを示しました。当作成期末にかけても、外出制限の緩和やワクチン開発への期待感などから、堅調な推移が継続しました。

債券市況

外国債券市場では、米国、英国の金利は低下（債券価格は上昇）、ドイツの金利はおおむね横ばいとなりました。

債券市況は、当作成期首より、米中貿易摩擦や主要中央銀行の金融政策動向に左右される展開が続きましたが、2019年末にかけては、米中通商交渉の進展期待や英国のEU（欧州連合）離脱への不透明感の後退を背景に、金利は上昇しました。2020年以降は、新型コロナウイルス感染拡大による投資家のリスク回避姿勢の強まりを受けて、市場では金利低下の動きが優勢となりました。また、主要中央銀行による大規模な金融緩和策の実施も、金利の低下を後押ししました。

為替相場

為替相場は、米ドル、ユーロとも対円でおおむね横ばいとなりました。

米ドル円為替相場は、米中通商交渉の進展期待などを背景に、当作成期首より緩やかな円安基調での推移が続きました。その後、2020年2月から3月にかけては非常に変動性の高い相場展開となり、新型コロナウイルス感染拡大に対する懸念の強まりが円買い要因となる一方、米ドル需要のひっ迫は米ドル買い要因となりました。その結果、米ドル円は上下に10円以上変動しましたが、4月に入ると、金

融当局による政策対応などを受けて徐々に落ち着きを見せました。ユーロ円為替相場は、新型コロナウイルス感染拡大を受けたリスク回避姿勢の強まりやECB（欧州中央銀行）による大規模な金融緩和から、全体を通して円高ユーロ安基調が優勢となりました。しかし当作成期末にかけて、ドイツ連立政権が景気刺激策について合意したことやECBによる金融支援策の拡大を背景にユーロの買い戻しが進んだことから、当作成期首比ではおおむね横ばいとなりました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

引き続き、システマティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）に信託財産の純資産総額の3分の2程度、マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（円ヘッジ・クラス）に信託財産の純資産総額の3分の1程度を投資することで、さまざまな市場環境の下で、絶対収益の獲得をめざします。

■システマティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）

相関の低い値動きパターンに幅広く着目し、株式、債券、通貨などさまざまな資産へ実質的に投資を行います。投資にあたっては、複数の投資戦略を選定し、主としてデリバティブ取引を用いるほか、株式、債券等への直接投資も行います。

■マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（円ヘッジ・クラス）

グローバルなマクロ環境に関する複数の投資テーマを選定し、当該テーマに沿った投資戦略を組み合わせることで、さまざまな市場環境から収益を得ることをめざして運用を行います。

ポートフォリオについて

(2019.6.18～2020.6.15)

■当ファンド

当ファンドは、システマティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）に信託財産の純資産総額の3分の2程度、マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（円ヘッジ・クラス）に信託財産の純資産総額の3分の1程度を投資するファンド・オブ・ファンズであり、当作成期を通じて、おおむね上記の投資割合を維持しました。

■システマティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）

相関の低い値動きパターンに幅広く着目し、株式、債券、通貨などさまざまな資産へ実質的に投資を行いました。投資にあたっては、「株式マーケット・ニュートラル戦略」、「転換社債裁定戦略およびイベント・ドリブン戦略」、「グローバル・マクロ戦略」の3つの戦略のリスク配分を、長期的に均等にすることをめざして運用を行いました。

■マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（円ヘッジ・クラス）

グローバルなマクロ環境に関する複数の投資テーマを選定し、当該テーマに沿った投資戦略を組み合わせることで、さまざまな市場環境から収益を得ることをめざして運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期は、経費控除後の配当等収益が計上できなかったため、収益分配を見送らせていただきました。なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2019年6月18日 ～2020年6月15日	
当期分配金（税込み）	（円）	—
対基準価額比率	（％）	—
当期の収益	（円）	—
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配対象額	（円）	119

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。



今後の運用方針

■当ファンド

引き続き、システムティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）に信託財産の純資産総額の3分の2程度、マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（円ヘッジ・クラス）に信託財産の純資産総額の3分の1程度を投資することで、さまざまな市場環境の下で、絶対収益の獲得をめざします。

■システムティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）

相関の低い値動きパターンに幅広く着目し、株式、債券、通貨などさまざまな資産へ実質的に投資を行います。投資にあたっては、複数の投資戦略を選定し、主としてデリバティブ取引を用いるほか、株式、債券等への直接投資も行います。

■マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（円ヘッジ・クラス）

グローバルなマクロ環境に関する複数の投資テーマを選定し、当該テーマに沿った投資戦略を組み合わせることで、さまざまな市場環境から収益を得ることをめざして運用を行います。



お知らせ

■商号変更について

大和証券投資信託委託株式会社は、2020年4月1日付で、商号を「大和アセットマネジメント株式会社」に変更いたしました。

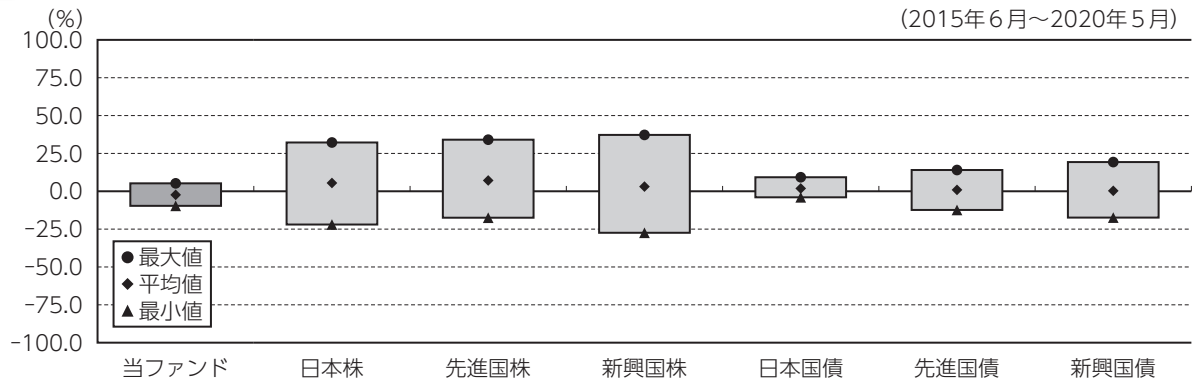


当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）
信託期間	無期限
運用方針	絶対収益の獲得をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	イ. ルクセンブルク籍の外国証券投資法人「JPMオルガン・ファンズ」が発行する「システムティック・アルファ・ファンドー」PMシステムティック・アルファ（Iクラス）（円ヘッジ）」（以下「システムティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）」といいます。）の投資証券（円建） ロ. ルクセンブルク籍の外国証券投資法人「JPMオルガン・インベストメント・ファンズ」が発行する「グローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンドー」PMグローバル・マクロ・オポチュニティーズ（Iクラス）（円ヘッジ）」（以下「マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（円ヘッジ・クラス）」といいます。）の投資証券（円建）
運用方法	①主として、システムティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）の投資証券およびマクロ・オポチュニティーズ・ファンド（円ヘッジ・クラス）の投資証券への投資を通じて、絶対収益の獲得をめざします。 ②当ファンドは、システムティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）に信託財産の純資産総額の3分の2程度、マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（円ヘッジ・クラス）に信託財産の純資産総額の3分の1程度を投資するファンド・オブ・ファンズです。 ③システムティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）およびマクロ・オポチュニティーズ・ファンド（円ヘッジ・クラス）では、原則として純資産総額とほぼ同程度のユーロ売り／円買い等の為替取引を行なうことにより、円に対するユーロの為替変動リスクの低減をめざします。
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、配当等収益の中から基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、配当等収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。



代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	5.2	32.2	34.1	37.2	9.3	14.0	19.3
平均値	△2.4	5.5	7.1	3.1	1.9	0.9	0.3
最小値	△9.6	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。

②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。

③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※資産クラスについて

日本株……………東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………JPMオルガン ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●TOPIXは東証が算出・公表し、指数値、商標など一切の権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●JPMオルガン ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.



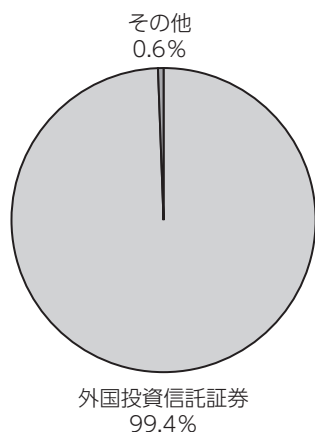
ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

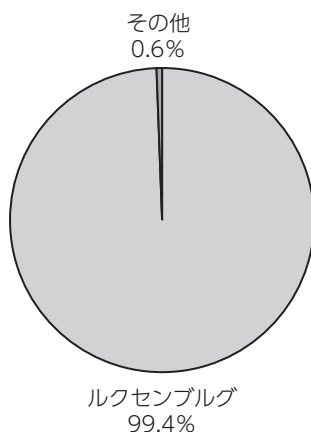
■組入ファンド等

	比 率
システムティック・アルファ・ファンド (円ヘッジ・クラス)	66.1%
マクロ・オポチュニティーズ・ファンド (円ヘッジ・クラス)	33.3
その他	0.6

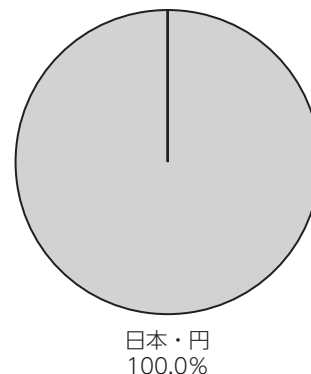
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1) 上記データは2020年6月15日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

※当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

純資産等

項 目	当 期 末
	2020年6月15日
純資産総額	928,532,332円
受益権総口数	1,085,932,263口
1万口当り基準価額	8,551円

*当期中における追加設定元本額は433,719,052円、同解約元本額は183,646,793円です。

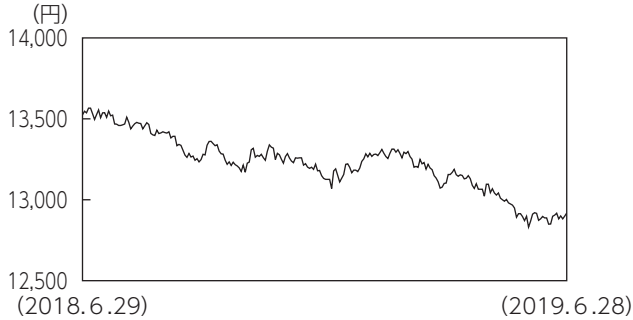
*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

組入上位ファンドの概要

◆ システムティック・アルファ・ファンドー JPMシステムティック・アルファ (Iクラス) (円ヘッジ)

(作成対象期間 2018年7月1日~2019年6月30日)

■ 1口当り評価額の推移



(注) 国内の営業日の評価額を記載しています。

■ 1口当り費用の明細

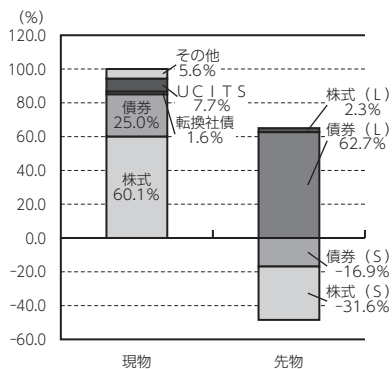
当ファンドの単位口数当りの費用のデータは取得できないため、記載しておりません。

■ 上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
Bundesschatzanweisungen, Reg. S 0% 2019/09/13	ユーロ	8.63%
France Treasury Bill BTF, Reg. S 0% 2020/02/26	ユーロ	3.47
France Treasury Bill BTF, Reg. S 0% 2020/03/25	ユーロ	2.63
France Treasury Bill BTF, Reg. S 0% 2020/04/22	ユーロ	2.62
France Treasury Bill BTF, Reg. S 0% 2019/07/17	ユーロ	2.61
France Treasury Bill BTF, Reg. S 0% 2019/11/09	ユーロ	2.61
Japan Government Two Year Bond 0.1% 2019/07/15	日本・円	2.43
Red Hat, Inc.	米ドル	1.94
Tribune Media Co. 'A'	米ドル	1.92
Worldpay, Inc.	米ドル	1.90
組入銘柄数	269銘柄 (現物投資資産)	

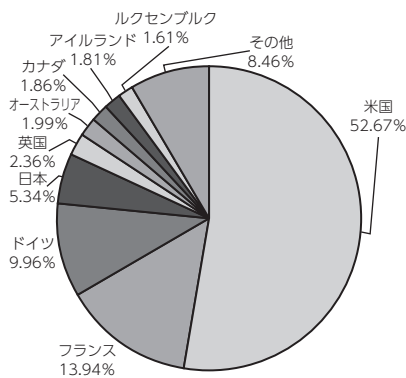
(注) 比率は純資産に対する比率です。

■ 資産別配分



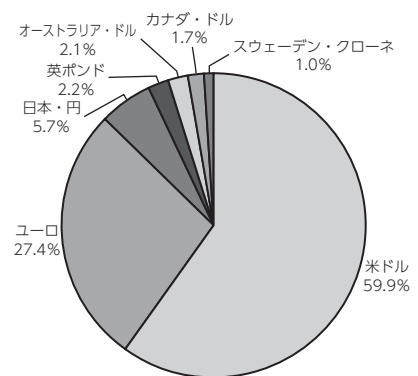
(注1) 比率は純資産に対する比率です。
(注2) 先物は L : ロング, S : ショートです。

■ 国別配分



(注1) 現物投資資産の比率です。
(注2) 比率は純資産に対する比率です。
(注3) 「その他」は、現金およびその他資産を含みます。

■ 通貨別配分

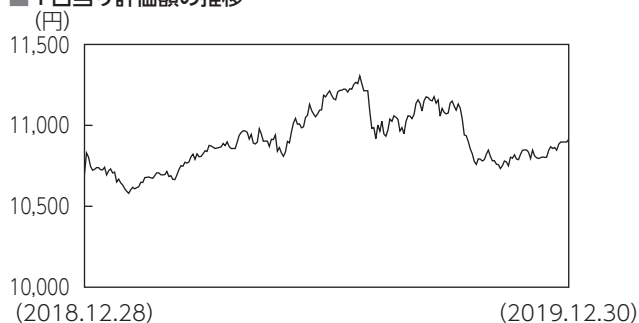


(注) 現物投資資産に対する比率です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。

◆グローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンドーJPMグローバル・マクロ・オポチュニティーズ（Iクラス）（円ヘッジ）（作成対象期間 2019年1月1日～2019年12月31日）

■1口当り評価額の推移



(注) 国内の営業日の評価額を記載しています。

■1口当り費用の明細

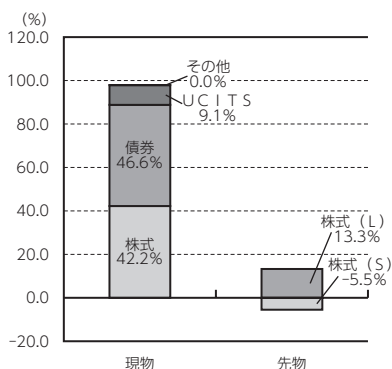
当ファンドの単位口数当りの費用のデータは取得できないため、記載しておりません。

■上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
US Treasury 2.375% 15/05/2029	米ドル	12.28%
JPMorgan EUR Liquidity LVNAV Fund - JPM EUR Liquidity LVNAV X (flex dist.)	ユーロ	9.06
US Treasury 1.625% 15/08/2029	米ドル	6.26
Japan Treasury Bill 0% 20/01/2020	日本・円	5.74
Japan Treasury Bill 0% 09/03/2020	日本・円	5.00
US Treasury Bill 0% 19/03/2020	米ドル	4.89
Japan Treasury Bill 0% 16/03/2020	日本・円	4.58
Japan Treasury Bill 0% 14/01/2020	日本・円	4.11
Japan Treasury Bill 0% 23/03/2020	日本・円	3.72
/Microsoft Corp.	米ドル	2.96
組入銘柄数	56銘柄（現物投資資産）	

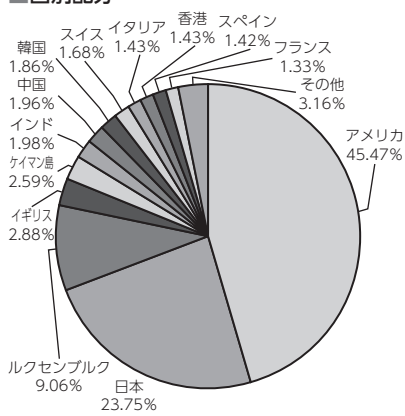
(注) 比率は純資産に対する比率です。

■資産別配分



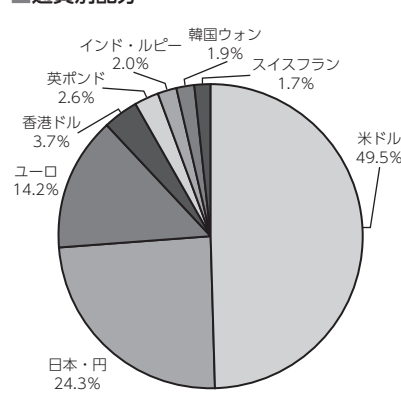
(注1) 比率は純資産に対する比率です。
(注2) 先物はL：ロング、S：ショートです。

■国別配分



(注1) 現物投資資産の比率です。
(注2) 比率は純資産に対する比率です。
(注3) 「その他」は、現金およびその他資産を含みます。

■通貨別配分



(注) 現物投資資産に対する比率です。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。